

## 地域の暮らし・文化・産業を根底で支える森林の 公益的機能を守るために活躍する森林ボランティア。

林業の衰退が叫ばれるなか、豊かであるはずの日本の森林が荒廃の危機に瀕している。地域の荒れた森林を再生させるため、間伐などの作業にボランティアとして取り組んだり、森林ボランティア講座を開設しているのが、「いわて森林再生研究会」。AJOSCからの助成を受け、講座のテキストに使われる「山仕事の手引き」が完成した。

### 荒れた森林を再生する森林ボランティア。

林野庁のデータによれば、日本の国土面積に占める森林面積の割合（森林率）は67%となっている。先進国の中でも有数の森林大国なのだが、その森林の荒廃が進んでいる。国産材に対する需要低迷によって林業が衰退し、森林が放置されていることが荒廃の大きな原因だが、そのままにしておくと、台風や大雨による土砂災害などを引き起こす危険性があるうえ、水の供給や生物の棲息といった環境保全機能がおびやかされる恐れがある。

77%という日本有数の森林率を持つ岩手県でも、事情は同じである。遠目には豊かな植生を誇る森林に見えても、近づいて見れば荒れが目立ち、とくに手入れがされて

いない人工林の荒廃が激しいという。そのような荒れた森林に出かけ、森林ボランティアとして間伐などの作業に取り組んでいるのが、NPO法人いわて森林再生研究会である。

2003年に設立され、現在の会員数は約160名。「会員は20代から70代後半まで幅広く、職種もさまざま。定年後に始めたという方や、女性も10数名います。3つの団体（注：間伐ボランティアいわて、いわて森林を守る会、みちのく郷山保全隊）に分かれ、山の所有者などから依頼された森林を年間計画に基づいて間伐しています。会員は、どの団体の活動に参加してもよい。仕事を持っている人も多いため、活動は土、日が中心です。最近は、製材、炭焼き、薪作りなど、間伐林の利活用にも力を入れています」と、事務局長の大江文昭さん。

また、2011年度は東日本大震災の災害復旧支援活動にも積極的に取り組んだ。炭や製材の提供、キノコ生産基盤の復旧、仮設住宅へのベンチ60脚提供、養殖いかだ用の丸太払出などを行ったが、日数にして28日、延べ427人が参加した。会では、今後も森林ボランティアという専門性を生かした復旧支援を続けていくという。他にも、各種団体が開催する講演会への講師派遣なども行っている。

### 助成金は森林ボランティア 講座のテキスト制作に。

森林整備と並ぶ同会の活動のもうひとつの柱が、「森林ボランティア講座」である。これは森づくりの正しい知識と技術を身につけるための場であり、月2回を原則に、年間約20回の講座を開いている。悪天候の場合や冬場を除き、基本は森林での実践講座という形で、チェーンソーの操作をはじめ、各種機材・道具類の扱い方などの作業技術、間伐する木の選定、森林生態学など、幅広いカリキュラムになっている。

「現場では超高速で刃が回るチェーンソーや刈払機などを使います。また傾斜地という不安定な場所で、何百キロもある樹木を相手にするので、安全面には特に配慮し



今回制作した小冊子「これならわかる 山仕事の手引き」



小冊子はイラストや写真を使いわかりやすい内容になっている



実践的な技術を学べる森林ボランティア講座の様子

ています。受講者2~3人に指導スタッフ1人が張りつく体制で、幸い、これまでは無事故ですが、もし大きな事故があったら即座に研究会は解散すると斉藤文男代表も言うほど、緊張感を持って講座を運営しています」と、大江さんは話す。

この講座でテキストとして使われているのが、会が岩手県と協働で制作した小冊子「これならわかる『山仕事の手引き』」である。道具・機材の使い方から安全な作業手順、森林調査、危険回避法まで、写真とイラストを使いながらまとめられている。あまり専門的にならず、これまでの



制作した小冊子を使用した講座の様子

### 担当者より



講座の受講者からも  
わかりやすいと好評の  
「手引き」ができました。

NPO法人いわて森林再生研究会  
事務局長  
大江文昭さん

岩手県では毎年、森林作業中の事故で数人の方が亡くなっています。森林ボランティア講座や各種技術講習会を行っていくうえで、この「手引き」は安全な森林作業の技術指導の手助けになると確信しています。AJOSCおよび地元である岩手県遊技業協会の助成に本当に感謝しています。ありがとうございました。

森林作業で経験した事柄を具体的に記述しているため、森林作業を理解したい受講者からはわかりやすいと評判になっている。2005年に初版を発行し、2007年には第2版を、そして2012年にさらに内容を充実させた再々版を2000部作成した。この制作に、AJOSCと岩手県遊技業協同組合からの助成金が使われた。

1年間受講することで、7~8割の受講者が「胸高直径25cm、樹高20mのスギ立木を安全・正確に伐り倒す」という目標の技術レベルをクリアできるという。原則として、この講座の修了者の多くがいわて森林再生研究会の会員となり、森林ボランティアとして間伐作業に従事ことになる（講座受講中は準会員扱い）。このような森づくりの知識と技術を持ったボランティア集団が各地にできれば、日本に森林再生活動が確実に広がっていくものと期待される。手入れが行き届いた森林は訪れるものを癒してくれるだけでなく、CO<sub>2</sub>削減などにも役立つ。豊かな森林は日本人の財産である。

### 岩手県遊技業協同組合から

岩手県は森林面積の広い土地ですが、山仕事の従事者が減り、放置されて荒廃した森も少なくありません。一般の人でも安全に山仕事ができるよう、このガイドブックを活用していただきたいと思います。